



乗た直利  
名とな郎  
哲に三  
道を僧  
自らを  
たつて  
権三  
という  
権三  
の供養  
塔

## 権三郎と綱宗の 恋のさや当て



萬治高尾の墓 ●高尾の墓碑には「万治三庚  
子極月廿七日、月桂円心大姉」とある

**島** 田家の歴史の中に、島田権三郎利直にまつわる悲運の恋物語がある。権三郎は島田忠政の五男で、四代將軍家綱の御小姓を務めたとされる。その恋敵である伊達綱宗は仙台の外様大名で、吉原の名妓三浦屋の二代目高尾に入れ揚げる。これがのちの「伊達騒動」の発端ともいわれ、歌舞伎や浄瑠璃の演目で有名な「伽羅仙台秋」はこの逸話をもとに作られた。

権三郎に想いを寄せる高尾は綱宗の手を逃れ、二人は坂戸の地に逃げのびるが、病身であった高尾は萬治三年（一六八〇年）二月二十七日、その生涯を閉じた。

永源寺に葬られた高尾の墓石には「万治三庚子極月廿七日、月桂円心大姉」の戒名が刻まれている。高尾の死後、権三郎は自らを道哲と名乗って仏僧となり、高尾の菩提を弔って一生を過ごしたという。実は高尾の死には諸説あり、定かなことはわからないのだが、萬治三年に亡くなったことから萬治高尾と呼ばれるようになった。

### 坂戸の一大イベント



平成十七年度より、毎年五月五日に行われている釈尊降誕祭。地元の人には、お釈迦さまとして古くから親しまれている。かつては旧暦の四月八日新暦では五月二十一日に行われていたが、養蚕が盛んだった坂戸では、この時期は繁忙期にあたることから、明治四十一年（一九〇九年）以降、五月八日に変更された。さらに近年、近隣の交通事情などから五月五日の「こどもの日」に行われるようになり、このことがさらなる賑わいと呼ぶ結果につながっている。



釈迦堂では午前8時から午後7時まで、1日4回のご祈禱が行われる



本堂には背中に誕生物を乗せた白象が安置される

「お釈迦さま」の呼び名で親しまれる

## 永源寺 釈尊降誕祭

写真提供：永源寺

### 庄巻の「おいらん道中」

釈尊降誕祭の起こりは、島田忠政が長崎奉行を務めた折に中国から賜った誕生仏を伽藍の再興と併せ、寺に奉納したことに始まる。

本堂前の花御堂に祀られた誕生仏に甘茶をかけ、無病息災や家内安全を祈念するもので、釈迦堂で執り行われる厳粛なご祈禱の他に、境内ではさまざま催しや露天の出店が楽しめる。なかでも、萬治高尾の逸話になぞらえた「おいらん道中」は庄巻で、総勢三十人もの大行列が絢爛豪華な衣装に身を包み、交通規制された沿道を練り歩くさまは必見。

祭りには、坂戸市の指定無形民俗文化財にも指定されており、毎年十万人近い人出で賑わうという。

三十二世山崎住職の「この伝統はこれからも絶やすことなく守り続けていきたい」との言葉に、強い熱意が伝わった。

### 境内や沿道での催し



奉納太鼓



おいらん道中



はしご乗り



参詣客は花御堂の誕生仏に甘茶をかけ、無病息災や家内安全、商売繁盛を祈願する